

HEAD TRICKS

BY JOEL DICKINSON

(本書裏表紙の言葉)

この「HEAD TRICKS」の中にあるのは、JOEL が実際に使っているレパートリーの中から厳選したメンタリズムのルーティンです。

これ等の収録されたルーティンは、元々は他のマジシャンに販売する目的で考案されたものではありません。そうではなくてこれらは JOEL 自身が使うための、まさに長年にわたって見直され、数え切れないほどの実演を通して磨かれてきた、強力なルーティン達です。

もしあなたが、第一級のメンタリズムのルーティンを探しているなら、本書を見過ぎてはいけません。

(訳注：JOEL DICKINSON は 20 年以上のキャリアを持つイギリスのプロマジシャンで、NORTH WEST MAGIC CHAMPIONSHIP で、クローズアップとステージの両分野で受賞している実戦派のマジシャンです。メンタルマジックもスライハンドもこなします。

なお、この本に収められたルーティンのいくつかは、これまでにイギリスの PENGUIN MAGIC からそれぞれ単独の商品として販売されているものです。例えば、本書の 1 番目と 2 番目のルーティンは、まとめて「VOLITION」というタイトルで販売されています)

THIS、THAT & THE OTHER

(現象)

折りたたんだ 1 枚の予言の紙片を客に渡して持ってもらいます。3 つの品物が示されますが、客は「どの品物をどこにしまうかを決めてもらう」と言われます。

客はこれ等の品物をどこにしまうかを決めますが、その後気を変えてもかまいません。

そしてマジシャンの予言が、最後の選択の結果と完全に一致します。

どの品物をどこにしまうかを決めるのは間違いなく客自身ですが、予言はその 3 つの自由な選択に一致するのです。

私の個人的意見としては、このやり方は「FREE WILL」原理の最も優れた応用例といえます。

(訳注：「FREE WILL」は客がしまう 3 つの品物の在処を予言する、DEDDY CORBUZIER

の有名なメンタルマジックですが、数多くのヴァリエーションが考案されています。FT マジックでも、「FREE WILL」に関する商品（「FREE WILL」など）や本（「TOTALLY FREE WILL」など）をいろいろ販売していますので、ご興味ある方はお問い合わせください

このやり方では、この現象をよりディセプティブ（だます）なもの、またクリーンなものとするための追加的な要素やサトルティーを加えています。

これは極めて簡潔なものであり、妙な道具や EQUIVOQUE（マジシャンズチョイス）も使いません。

客は、エフェクトが始まる時に自分のする選択について言われますが、それは全くのフリーチョイスなのです。

（必要なもの）

全部で5枚の名刺が必要です。

そのうちの3枚に「その他」と書き、もう1枚に「これ」、最後の1枚に「それ」と書いておきます。

-以下省略-

（演技）

演技を始める準備が出来たら、ポケットから封筒を取り出します。

封筒から予言を取り出してテーブルに置きながら、

「これには最後になるまで触りません」

と言います。

-以下省略-

（補足）

・名刺に書く「これ」、「それ」、「その他」という表現は、予言ととてもうまくマッチしており、秘密を隠すのに一役かっています。予言を読む人は誰でも、不自然さや違和感を感じることはありません。

予言の文言は正確に上記の通りにする必要はなく、あなたがやりやすい文言でかまいません。

・ここで使う名刺のスイッチはとても簡単で、一瞬で終わります。私が2015年に初めてこの「THIS、THAT & THE OTHER」を発表して以来、多くのマジシャンがスイッチを他の道具を使ったやり方などに置き替えようと試みて来ました。しかし、私は説明したやり方を

何回もやって来ましたが、見破られたことは一度もありませんので、このやり方を強く薦めたいと思います。スイッチのための動作は、口頭での客への指示に伴って行われるのであり、とてもフェアな動作です。よく言われる通り、「追われてもいけないのに、逃げなくても良い」のです（堂々とやれば良いのです）。

このエフェクトを是非試してみてください。少しずるいですが、易しく出来て満足すべき結果が得られます。

-以下省略-

VOLITION

この「VOLITION（意志の力、決断力）」は、文章で読む限り、前のエフェクトととてもよく似ています。しかし実際の演技においては、観客に与える効果は大変異なります。

これは私の大変お気に入りの名刺のエフェクトであり、ユニークで不可能性が高いことから、相手の客と観客に忘れられない効果を与えます。私の演じる「VOLITION」には演技環境の制限もありません。クローズアップでもストローリング（歩き回って演じるスタイル）でも、テーブルでもサロンでも演技可能です。

（現象）

3枚の名刺を裏向きで客に渡してミックスしてもらいます。客がどの名刺をどこにやるかを決めますが、その選択の内容が事前に予言されているのです。

客には、事前に3枚の名刺は異なる場所に置いてもらうように指示しておき、それに従って客が完全に自分の意志で決めます。まったくフェアな展開です。

これには特別なギミックなどは使いませんし、即席で出来て、客は合理的説明が出来ないものです。

（必要なもの）

これには5枚の名刺あるいは両面ブランクのカードを使います。

-以下省略-

（準備）

-以下省略-

(やり方)

-以下省略-

(補足)

・このエフェクトを私の友人とシェアした時、その友人は予言の書かれた名刺を永持させるためにラミネート加工をしていました。

・このエフェクトをステージで行う時は、必ずポケットのある服装をした客を選ぶようにしてください。私はかつて、ある女性客をステージに上げたのですが、なんと彼女の服にはポケットがなかったのです。大失敗でした。注意してください。

FORSEEN

これはメンタリストやマジシャンが演じるのに理想的な、不思議さが湧いてくるミラクルです。客が、どの手に1つの品物を持っているかを推測するゲームですが、5回やります。メンタリストの予言がその結果を全て当てているので、観客は驚きます。客がする選択のすべてをメンタリストが知っていたことが明らかになり、相手の客は啞然とします。しかも、その予言はずっと客のポケットに入っていたのです。

これは必ず大受けするエフェクトであり、すべてが考え抜かれた、予言ベースのユニークなルーティンです。なんのギミックも使わず、演じるのが易しいです。マグネットなども使いません。

また、必要なTIP(演じる際のコツ)やサトルティー、さらに最後に素晴らしいボーナスルーティンも解説してあります。

「FORESEEN」についてのMARC PAULの寸評です；

「JOELは『WHICH HAND』のプロットを、間違いなく前進させました。これはよく考えられた、効率的なルーティンであり、『WHICH HAND』のとても素敵な解決策です」

(「FORESEEN」について)

この「FORESEEN」は、メンタリストが品物のある手を正しく当てるといふ、伝統的な「WHICH HAND」ルーティンではありません。

これはKUROTSUKE(訳注:MAX MAVENの名作です)へうまくつなげることも出来ますし、また単独のルーティンとしても演じられますし、演技のフィナーレを飾ることも出来ます。クローズアップを得意とするマジシャンやメンタリストに理想的なものではありますが、またサロンやステージで大きな演技を展開することも出来るものです。

私は「FORESEEN」をいつも歩き回りながら行う演技の中で演じたり、またステージでも定期的に演じています。これはとても強力な演目であり、あなたの好みに応じて調整する余

地の大きいものなので、このルーティンをマスターすることを私はお薦めします。以下の解説にも、あなたの演技スタイルとタッチを持ち込む余地を十分に残してあります。

（必要なもの）

4 枚の名刺が必要です。ただし、必ずしも名刺でなくても両面ブランクのカードや、紙を適当な大きさにカットして使ってもかまいません。

ペンが 1 本要ります。

（準備とハンドリング）

ハンドリングについては、あなたが名刺を使っているものとして説明します。POST-IT ノートを使っても出来ませんが、それについては、追加のサトルティーを後で説明します。

準備はとても簡単です。

-以下省略-

（ラウンド1）



「では、第 1 ラウンドです。私はどちらの手に予言を持っているでしょうか？」とたずねます。



「素晴らしいです。では、スコアカードの『1』に丸をしてください。次に進みましょう」



（ラウンド2）

「あなたはこのゲームがうまいですね」



[Redacted]

[Redacted]

「あなたはとてもうまくやっています。さて、今度はどちらの手に予言の名刺があるでしょうか？指差してください」と言います。

[Redacted]

「残念でしたね。では「2」に1本線を引いて消しておいてください・・・もう一度やりましょう」と言います。

メンタリストは両手を握ったまま、また背後に回します。

(ラウンド3)

[Redacted]

「今度はどちらにあるでしょうか？」とたずねます。

[Redacted]

「残念でしたね。スコアカードの「3」を一本線で消してください・・・さあ、続けましょう」と言います。

(ラウンド4)

[Redacted]

「今度はどちらの手にあると思いますか？」

[Redacted]

「素晴らしい、当たりです。スコアカードの『4』に丸を付けてください。では、今度」が最後の回ですよ」などと言います。

(ラウンド5)

「さあ、最後です。どちらの手にあるでしょう？」

「スコアカードの『5』に丸を付けてください・・・お疲れさまでした。あなたは大変良くやってくれましたが、いくつ丸が付きましたか？」とたずねます。

客は「3つです」と答えます。

「ということは、3つが正しくて、2つが間違っただという訳ですね。さて、あなたは私がこれが予言だと言ったのを覚えていますか？」

「どうぞこの予言を手にとってください。そして、それを開いて書いてある事を声に出して読んでください」

ここでこう言います；

「私はどうにかゲームの結果を予言することが出来たようです。しかし、もし私がゲームの結果をもっと詳しく予言していたらどうでしょうか？それは人の行動というものが、実は予測し得るものだということを示していることになるのです。ひょっとして、あなたはお忘れかもしれませんが、このゲームを始める前に私は1枚のカードをあなたのポケットに入れておいてもらいました。では、そのカードを取り出して、あなたスコアカードと比べてみてください」

客はポケットからカードを取り出して、スコアカードと比べてみます。見事に結果が一致します。

(補足)

-以下省略-

(練習)

-以下省略-

(テーブルホッピング)

あなたがテーブルホッピングをしている時でも、このルーティンを演じることは可能です。

(POST-IT ノート)

この手順は POST-IT ノートを使っても行うことができます。その場合、始めに客のズボンのポケットに入れておいてもらう予言は、POST-IT の裏面（糊の付いた面）に書いて、客の服のどこかに貼り付けておけば良いです。

(最後の予言)


皆さんの中には、最後の予言を見せるのは余計だと思う人もいるかもしれませんが、そうではありません。逆にエフェクトを強化してくれます。2 つ目の予言が客のスコアカードと完全に一致していることは、相手の客と観客を本当に驚かせます。驚異的なことに見えます。手の中の最初の予言は弱い予言で、「秘密の予言」こそがルーティン全体を締めるビッグフィニッシュとなるのです。

(最初に見せる予言について)

演技の最終段階で最初に見せる予言（手に握っていたもの）について、人によっては気に入るかもしれないやり方のオプションを挙げておきます。最初に「3 つが正しい。そして2 つが間違い」と書く時に、観客にはその内容を見せるのです。相手の客には見せません。ゲームのラウンドの進行を観客は驚きながら見守るという訳です。そして、「秘密の予言」が開示された時は全員が驚くことになります。

このやり方はまた、観客にメンタリストが予言をスイッチしたりしていないことを判らせます。あるいは観客の 1 人に見せて、予言がスイッチされていない事の証人になってもらう手もあります。予言が 1 つしかないということは、エフェクトの効果をとて強化することになります。

(ラウンド5の後)



(リセット)


-以下省略-

COIN FORESEEN

BY JAY ROLLINS

JAY を知らない人のために言っておくと、彼はメンタリズムとマジックの驚くべきクリエイターであり、また素晴らしい演技者でもあります。

ここでは名刺の代わりに同じ 2 枚のコインを使います。使うコインの裏にマーカーで「3」と書いておきます。ゲームの各ラウンドのハンドリングは前記のやり方と同じですが、違う点は客から同じ種類のコインを借りて出来ることです。



ゲームを次のようにスタートさせます；

「これからゲームをやろうと思います。コインを 1 枚お借りしたいのですが、お持ちの方はいませんか？・・・有難うございます。このコインの裏に予言を書いておきたいと思います。その予言は、あなたがこのゲームに何回勝てるかというものです。あなたにはその予言は見せません。はたして私のどちらの手にコインがあるかを何回当てられるでしょうか？」

こう言うことで、コインに書かれた「3」という数字は単なるメンタリストの推測ではなく、「予言」となります。

5回のラウンドが終わったら、予言の「3」を見せます。そして最後に「秘密の予言」を見せて終わります。

このエフェクトはコインだけではなく、キーリングやポーカーチップ、小さな装身具その他、多くの物が使えます。ただし、予言を書く場所があるものに限られますが。いろいろな物を使って見てください。

(クレジット)

私は出来る限り調べてみましたが、客が品物があると思った手を

JAY ROLLINS：対のコインを使うというまいやり方を考えてくれました。

BOBOの「**COIN MAGIC**」：BOBOの名著「**COIN MAGIC**」の中に、対の品物を使ったルーティンがあります。

MARC PAUL：彼は「**A COIN IN THE HAND**」という予言のルーティンを発表していますが、それは「**FORESEEN**」と似た部分があります。ただ、それはまったく違うルーティンであり、その収録されている彼のDVD[**MIND2MIND**]を強くお勧めします。そこで**MARC PAUL**が解説しているすべてのことをチェックしてください。参考となりますので。

MAX MAVEN：彼は「**KUROTSUKE**」のルーティンを発表しています。「**FORESEEN**」には**MAX MAVEN**のハンドリングと共通性はありますが、彼のその素晴らしい作品は是非チェックしてください。

TED KARMILOVICH：彼は、「当たり」、「外れ」をコントロールする大胆なやり方を発表しています。

TRIVEAL

これはクローズアップでも、ストローリングでもステージでも出来るもので、十分に試されテストされた強力なルーティンです。とてもディセプティブ（だまされる）であり、メンタリストにもマジシャンにも向くものです。

(現象)

演技が始まる前に1つの予言が客に手渡され、以後それには誰も手を付けません。1組のカードがシャフルされ、その中から3人の客にそれぞれ何枚かのカードが渡されます。それぞれの客は各自のポケットの中から、1枚のカードを心に思います。

メンタリストは客に何の質問もすることなく、最初の客と2番目の客の心に思ったカードを

当ててしまいます。

最後はまさにキラークエンディング（びっくりさせる終わり方）です！

3番目の客が予言を開けて書いてあることを読むように言われます。その予言ははじめからずっと置いてあったにもかかわらず、そこにはその客の思ったカードが描かれているのです！

この、クローズアップからステージにまで適した「TRIVEAL」は、マスターするのも易しいとても良く考えられたルーティンです。

いくつかのサトルティーが、このエフェクトをとっても強力なマジックにしています。幸いな事にそれらは覚えるのも簡単で、エフェクト全体も易しく演じられます。

私はこの強力なルーティンをあなたのレパートリーに入れることを強くお勧めします。決して後悔しないでしょう。クローズアップからステージまで対応範囲のとても広いものです。

このエフェクトの準備が出来たら、あなたは1つのミラクルを手にしたこととなります。

（準備）

-以下省略-

（最後に）

この本を購入していただき、有難うございます。この本の中に、あなたのレパートリーに入れることが出来て、それを演じることを楽しめるルーティンが見つかる事を望みます。

最後に・・・

自分を信じてください。

あなたがやる事に自信を持ってください。

あなたの観客を信頼しましょう。

親愛なる読者に感謝を込めて

JOEL

—以上—

HEAD TRICKS

BY JOEL DICKINSON

翻訳： 平賀 義達

編集：（有）フェザータッチ MAGIC

- この日本語解説書は、あくまでも英書「**HEAD TRICKS**」をご購入いただいた方へのサービス原稿となります。

日本語解説書単体での販売はできません。

また内容についてはフェザータッチ MAGIC が独自に翻訳編集したものです。

日本語の全てのコンテンツの著作権は、フェザータッチMAGICが所有します。
許可なく複製、転用、販売等の二次使用は一切禁止します。

★ 誤字、脱字、誤訳等がありましたら、ご連絡いただければ幸いです。
皆さまのご協力でさらに良いものに仕上げることができればと思います。

日本語説明書©2021 FTM: *Feather Touch Magic Inc.*

販売：（有）フェザータッチ MAGIC
www.FTMagic.JP



メール: FT@FTMagic.JP